



# のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル  
 TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218  
 E-mail center@f-npo.jp  
 URL <http://www.f-npo.jp/>

## 「地域の皆さんとともに、風になりたい —理事長に就任して—」

理事長 佐藤 和子



「1000の風になって」という詩が注目されて、本の売り上げを伸ばし、秋川雅史のCDも驚くほど売れています。この春に母を見送ったこともあり、私の胸にも染み入るように聴こえます。しかし、この詩の作者は未だ不明のままです。私はこの詩にとても魅力を感じます。それは作者が誰であろうと亡くなったものへの深い慈悲と愛情は、万民万国共通なのだと証明しているからです。

私はふくしまNPOネットワークセンターの設立から関わっており、10年が経ちました。ようやく小さな基盤ですが、固まってきた感があります。ふり返ればすべてが勉強であり、仕事では想定できない経験でした。これまでいろいろなことがありましたが、仲間とともにあることと、まちを元気にしたいという想いをいつも持ち続けていました。それは今も変わりません。

2009年度ふくしまNPOネットワークセンターは新体制のもとスタートしました。不器用な私が理事長に就いたことは、自分のなかでも大きな出来事です。いい緊張感を持ちながら、会員の皆さん、そして地域の皆さんとともに、中間支援組織として活動の充実をはかり、当初の志を思い出しながら、その目的に向かって邁進していこうという思いを強くしております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 第10回通常総会・講演会開催しました

2009年度通常総会が7月11日（土）に、チェンバおおまちで開催されました。18名の会員の方に出席いただきました。総会後には、「新公益法人改革のポイントとNPO法人との関係」と題して福島県文書管財総室私学法人課の大槻成様による講演会を開催し、公益法人制度改革の説明をしていただきました。



## NPOらしい総会のあり方思いつきますか？

副理事長 星野 珙二

当法人の年次総会が7月11日(土)にチェンバ大町で開催された。20年度の事業報告および収支決算については結果的には認められたが、手続きにおいて一点の瑕疵があった。一人の監事監査を受けて金額が確定したところで税金を計上し、それを先の監事に知らせることなく、もう一人の監事には新たに税金が計上された報告書で監査を受けていた。費用項目間の移動と捉えれば単純ミスと言えなくもないが、総会を迎える一連の手続きとしては大きな問題を含んでいる。会計担当者と理事会との日常的な意思の疎通、そして私も含む理事会の目配せ、気配せ不足という現実を露呈してしまった。掛けもち理事の多い当センターの弱点をまたもや曝け出してしまった格好だ。要注意である。

その他、21年度の事業計画、収支予算、そして役員等の人事は問題なく認められた。清水理事長、2年間御苦労さまでした。引き続き理事としてのご尽力をお願いします。佐藤和子新理事長、頑張りましょう。

講演会では県の私学法人課から大槻成さんを招いて「新公益法人改革」について講演していただいた。100年ぶりの大改革であること、少なからずNPO法人にも影響が及ぶことが理解できた。

ところで、NPOらしい総会のあり方って、何かないのかな、と総会のたびに考えさせられてきた。会員は同志であり、普段一同に会することも少ないわけだから、他法人でよく行われているような通り一遍の総会形式では参加する会員の方に物足りないと思われたりしないか、せっかくの機会なのだからもっとコミュニケーションがとれる方法はないものか、という具合に考えてしまうのである。たとえば、せんだい・みやぎNPOセンターがその評議会でやっているように、テーブルごとに小規模グループに分かれて討議をし、後で報告しあって、全体の意見をまとめるというやり方もある。しかしこの形式が、総会にふさわしいやり方かという問題はあるかもしれない。



## ふくしま市民活動フェスティバルについて

常務理事 齋藤 健

今年も「ふくしま市民活動フェスティバル」を行うことになりまして、日にちは12月13日(日)にコラッセを会場にして行う予定です。(昨年度は2月に会場は“こむこむ”で行いました。)

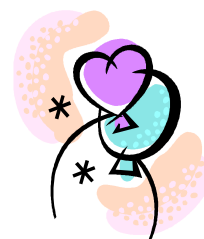
6月19日に準備会、7月13日に第1回の実行委員会を行いまして、日にちと実行委員会の骨格を決めました。第1回実行委員会には県北地域のNPO団体の関係者18名に集まって頂きまして、既にいろんなアイデアが提案されております。(第2回実行委員会は8月3日にウィズもとまちで行われます。)

コラッセの会場は12月13日の当日は1Fホール全面、3F企画展示室、301、302会議室4Fの多目的ホールを予約しており、展示、物販、相談会、活動報告会、独自の催し、活動提案のプレゼンテーション等と盛沢山の内容になる予定です。会場は受け入れのスペースもかなりありますし種類もありますので、地域の住民の方々にNPO、市民活動団体を知ってもらうために、いろんな取り組みが出来ることと思います。

県北地域のNPO法人、福島市市民活動サポートセンターの登録団体を中心にしまして、フェスティバルの案内を8月中旬には送り出したいと思っていますので(約200団体くらいになると思われる)。地域の多数の市民活動団体関係者が参加されることをお待ちしております。

当然、途中からの参加も随時受け付けるつもりでいますので、我々もと、是非、考えて頂きまして、案内が行きましたら、ご一報を頂きたいと思います。そうして、皆様のご協力で持って活況な「ふくしま市民活動フェスティバル」にしたいと願っております。

よろしくをお願いします。



## 梅雨空を突き破り、ペダルタクシーは風を切って行く



理事 遠藤 ヒロ子

柔らかい陽ざしが降り注ぐ弥生3月半ばの昼下がり、勤務先に1本の電話が入りました。

「しばらくですね、遠藤さん。お元気でしたか？」と星野福島大学副学長でした。

「遠藤さん！今年度で退職？」「はあ～？」

「何か予定はありますか？」「1件、急な話ですが、県議会の図書室にとお誘いいただきました。」

「そうですか。それはおめでとうございます。ところで、ふくしまNPOネットワークセンターに来ていただけませんか？」と、こちらにも突然のお誘いでした。

新聞等で様々な活動が紹介され、市民権を獲得しつつあるとは言え、NPOって一体何者、NPOに属して私ごとが何ができるのかと、お声掛けには感謝しつつも、県立図書館を退職し、母親の介護に専念しながら、しばらくのんびりとしていたと考えていましたので、どうしたものかと決めかねておりました。

その後、ネットワークセンターの様々な活動を聞かせていただき、今年で10年目を迎えること、地域活性化のため情報発信や相談事業を行っていること、今後、行政や市民等の協働によるまちづくりを具体的に市民へ提言していくことなど、臆気ながらネットワークセンターの姿が見えてきました。そして、また、何が足りないのか、私なりに考えられたのです。

35年間の図書館勤務の中で、生きていくためには人とのつながりが大切で、新たなコミュニケーションを創造しながら、市民参加型の生涯学習を定着させていきたいと考えておりましたので、お引き受けすることにした次第です。

7月9日の夕方に、佐藤和子理事長が県議会図書室に駆け込んできて「11日にネットワークセンターの理事会があるので出席してね。」と言われ、再びペダルタクシーは風を切って走り始めました。

息子、娘のような若者たちと共に、時に母親的存在で、時にファンタジーの心で、一つ一つの時間と空間を大切にしながらまちづくりを考えて参りたいと思います。

人生は一生青春であること、時に大冒険も必要であること、失敗しても笑い飛ばすことをモットーに、私なりに福島の良いところを生かしながら、皆さまとご一緒に（私はペダルタクシーですが）元気あるふるさととなるよう努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 市民が応援する市民活動

ふくしまNPOネットワークセンター会員  
福島市議会議員 早川 哲郎

役所が市民活動を助成するとき、活動が公益的であるか、または広く市民を代表しているかはそれぞれに違いがあり、公共性、公平性を原理とする役所は、どの市民活動を支援すべきかの判断を迫られます。

支援する活動を選ぶ方法として、学識経験者や公募市民が審査する方法が一般的ですが、山形市で行っている市民100人が投票で選ぶ方法や、市川市が平成18年から行っている納税者が支援先を選ぶ1%支援制度など、市民が直接選択する方法が広がってきています。特に市川市の方法は愛知県一宮市や岩手県奥州市などでも取り組みが始まり、今年市川市では1%支援制度を行う自治体に呼びかけサミットの開催も予定されているほどです。

1%支援制度では市民側、活動する側双方に視点、価値観の共有または変革が期待できます。活動側が提示する課題性とその解決方法をどれだけの市民が共有するのか。市民側には気付きが生まれ、活動側には振り返りが起こります。これは審査員方式にはない効果だと思います。

活動側は公益性や実効性に一層の気配りをし、市民側はより厳しい目で選択し、また場合によっては活動側にポジション・チェンジするかもしれません。1%支援制度は活動支援だけではなく市民活動の広がりにも期待できる優れた仕組みだと思います。

## 福島市市民活動サポートセンターから

平成21年度 市民活動サポートセンター主催講座スケジュールをお知らせいたします。

オープンセミナー(講演会)		
10月10日	<b>第一回 「ネパールに学校を建てたけれども」</b> 講師:村野井 幸雄 氏(福島県現代詩人会名誉会員)	13:30~15:30 会場:ラヴィバレホール
11月14日	<b>第二回 「一店逸品で街の活性化」</b> 講師:加藤 博 氏(青森商工会議所常議員)	13:30~15:30 会場:ラヴィバレホール
市民活動ステップアップ講座		
9月12日	<b>第一回 「いまの私にできること -ボランティアとNPOを知る-」</b> 講師:齋藤 美佐 氏(ふくしま情報ステーション所長)	13:30~15:00 会場:ウイズ・もとまち
9月19日	<b>第二回 「楽しくいきいきと健康に -市民活動実践講座-」</b> 講師:伊藤 賢之 氏(ふるさとの川・荒川づくり協議会会長)	13:30~15:00 会場:ラヴィバレホール
10月24日	<b>第三回 「蓬莱地区のまちづくり」</b> 講師:小林 悦子 氏(蓬莱まちづくりコミュニティ『ぜえね』代表)	13:30~15:00 会場:ウイズ・もとまち
12月5日	<b>第四回 「協働のまちづくりを進める」</b> 講師:牧田 実 氏(福島大学准教授)	13:30~15:00 会場:ウイズ・もとまち
NPOマネジメント講座		
10月3日	<b>第一回 「市民のための『企画力・実現力』講座」</b> 講師:清水 修二 氏(福島大学副学長)	10:30~12:00 会場:ウイズ・もとまち
11月28日	<b>第二回 「支援獲得の上達法」</b> 講師:横田 篤 氏(特定非営利活動法人福島夢集団代表)	10:30~12:00 会場:ウイズ・もとまち
平成22年 1月30日	<b>第三回 「NPOの会計講座」</b> 講師:加藤 英夫 氏(有限会社かとう会計事務所代表)	10:30~16:00 会場:ウイズ・もとまち
平成22年 2月6日	<b>第四回 「NPOの税務講座」</b> 講師:加藤 英夫 氏(有限会社かとう会計事務所代表)	10:30~16:00 会場:ウイズ・もとまち
平成22年 2月20日	<b>第五回 「パソコンで解決・会計処理講座」</b> 講師:早川 哲郎 氏(ITコンサルティング早川事務所代表)	10:00~16:00 会場:ウイズ・もとまち

申し込み・問い合わせは、すべてふくサポへどうぞ。

〒960-8044

福島市早稲町4-16 ラヴィバレ一番丁 3階

電話：024-526-4533 FAX：024-526-4560 電子メール：[f-ssc@bz01.plala.or.jp](mailto:f-ssc@bz01.plala.or.jp)

mailタイトルには、講座名を明記してください。

本文には、ご氏名・団体名(団体に所属されている方)・連絡先(電話、FAX、携帯電話等)・受講の動機を必ずご記入ください。

「のっぽの手」では誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げております。当センターへのご意見、日頃の活動に関する事、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局 <http://www.f-npo.jp/>

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1

TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218

E-mail:center@f-npo.jp

福島市市民活動サポートセンター <http://www.f-ssc.jp>

ふくしま情報ステーション <http://www.machi-fukushima.jp/>

